



SESERAGI-MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2010~2011年度 RI会長 レイ・クリンギンスミス
RIテーマ BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS 地域を育み、大陸をつなぐ

クラブテーマ「親睦をもっと深め、心の奉仕を行動で示そう」会長 西原克甫
副会長 渡邊照芳 幹事 内田憲一

第1015回 例会 2010.09.17 (金) 晴

司会:土屋 巧君 指揮:山本 章君
ロータリーソング「日も風も星も」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL. 055-976-6351 FAX. 055-976-6352
<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>
せせらぎ三島ロータリークラブ

例会場 ブケ東海三島
TEL. 055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

せせらぎ三島ロータリークラブ

会長 西原克甫君

こんばんは、暑さもようやくおさまりました、さわやかな秋の風を感じるようになり、それとともに政局もようやく落ち着きはじめ、これから日本の経済の立て直しが本格化することを期待しております。



円高も日本銀行が円売りに介入してようやく円安に転じています。貿易国である日本は、円高になると国内で生産することが不可能になり、生産拠点が安い外国へ大企業が移転生産をするようになりますと下請けの中小企業も外国へ拠点を移さなければならず、空洞化現象が起こり、雇用が無くなり益々不景気になります。このようなことが起きない様にしていきたいと思っております。

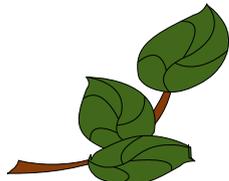
さて、本日は、親睦例会です。後程ゲストの女優の大塚良重様が「夏目漱石の短編」から四作品を語り部でご紹介いただけるそうです。

楽しみにしております。

親睦例会ですので皆さんで大いに語り、飲んで、食べて、夏目漱石の物語を聞いて自己研鑽をして楽しみましょう。

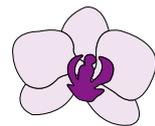
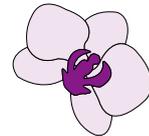
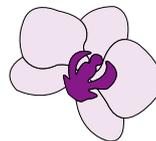
最後になりましたが地区のロータリー情報ご連絡いたします。

11月14日に行われます地区大会のRI会長代理に姫路ロータリークラブの安平和彦氏がRIから派遣されることに決まったそうです。ご職業は、民事弁護士さんです。地区大会等詳しくは、日にちが近くになりましたら内田幹事さんよりご連絡致しますのでご協力宜しくお願い致します。



ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

エサ・ラディティアさん(米山奨学生)
大塚良重さん
山上光喜さん(元会員)
松下充孝さん(元会員)



出 | 席 | 報 | 告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	27/34	79.41%	29/34	85.29%
今回	32/34	94.12%	会員総数	36名
欠席者	あなたが見えなくて残念でした。			

遠藤君、望月君

幹事報告

幹事 内田憲一君

- GSEホームステイの受け入れを山口雅弘君がこころよく受けていただきました。誠にありがとうございます。



松下充孝さん: お久しぶりです。今晩はやっかいになります。

PHOTO GALLERY



夏目漱石の短編を語る女優の大塚良重さん



米山奨学生エサ・ラディティア君



ROTARY NEWS

～日本の元国際親善奨学生が宇宙飛行士に～

日本人宇宙飛行士で、元国際親善奨学生である山崎直子さんは、子どものときから宇宙にあこがれていたと言います。故郷の千葉県松戸市では、毎晩のように星を観察していましたが、成長するにつれ、映画「スター・ウォーズ」やスペース・シャトルの打ち上げのテレビ中継によって、山崎さんの熱意はますますかき立てられました。

スペース・シャトル「ディスカバリー」の乗組員として、山崎さんは既に360時間を超える宇宙飛行歴を積みました。去る4月には、国際宇宙ステーションに向けた、ディスカバリーによる物資補給ミッションで、ミッション・スペシャリスト（搭乗運用技術者）として参加しましたが、この経験は山崎さんにとって特に意味深いものでした。

山崎さんの宇宙飛行士としてのキャリアの選択には、1994-95年度にロータリー奨学生として国際プロジェクトに参加した経験が大きな影響を与えました。山崎さんは、千葉県の松戸中央ロータリー・クラブから派遣され、米国メリーランド州のメリーランド大学で宇宙ロボット工学を学びましたが、そこで一緒に研究をしていた世界中からの学生たちが、日本人の自分より日本と日本文化をよく知っていたことに驚かされました。この経験は、自分の母国のことだけではなく、客観的にものを見ることの大切さを教えるものとなりました。山崎さんは、この客観性は宇宙飛行士としての仕事にも大事だと考えています。

「地球を離れた場所から研究すると、とても学ぶことが多いのです」と山崎さんは語ります。

留学中にはまた、コミュニケーションのスキル、入念な準備、そしてチームワークの大切さも学んだと言います。これは、1996年に日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA）で宇宙飛行士としてのキャリアを始めたときにも生かされました。

宇宙計画で効率よく情報を共有し、協力し合うには、コミュニケーションが大事です」と山崎さん。「留学先で、特に外国語で意思の疎通をしようとする場合も同じですね」

実際に宇宙飛行をするに至るまでの道のりには、カナダ、日本、ロシア、米国での10年近い訓練がありました。基礎的な訓練を終えてからは、ロシアへ赴き、7カ月かけてロシアの宇宙船「ソユーズ」のフライト・エンジニア（航空機関士）の資格も取りました。

地球に戻ってからの山崎さんは、NASAへの訪問、宇宙船の軌道を検討する専門家会議への参加、広報活動など、宇宙飛行の事後活動に携わっています。

「宇宙ステーションは2020年まで運行される予定ですから、もう一度行けるといいと思います」